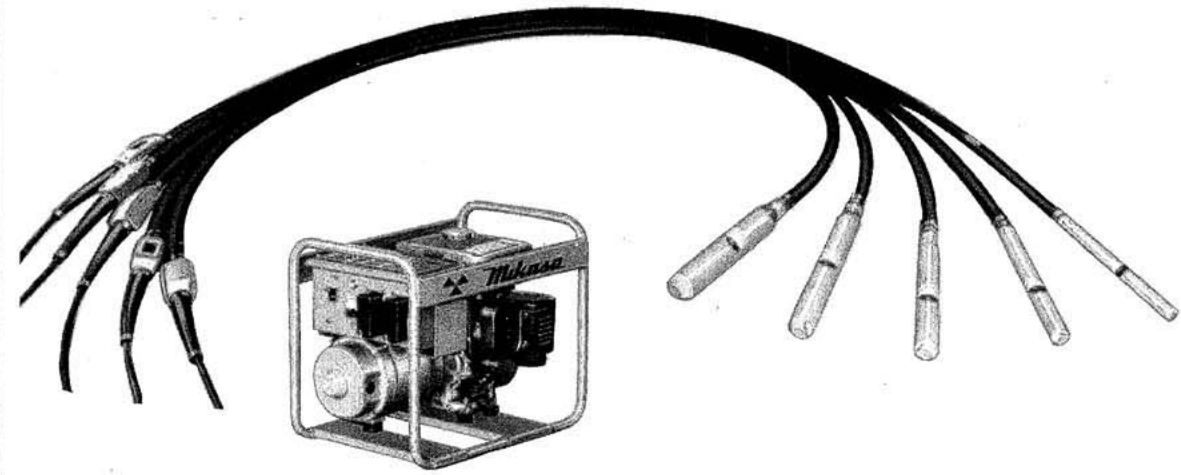


三笠ニュース

発行所
東京都千代田区猿樂町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222~4607
郵便番号 101
PR旬報 年4回発行

ますます充実した 高周波バイブレーター 新製品ぞくぞく登場



(右よりMD30・40・50・60・70型インヘッダー 中央はMFG-1100型エンジンゼネレーター)

インヘッダーのベトナムで知られ、近頃各地に於いて活躍している三笠の高周波バイブレーターにまたまた新たな製品が登場した。六月三日から八日までの六日の間、東京都中央区晴海埠頭前広場で開催された日本建設機械化協会主催の建設機械展示会の三笠産業小間ではこれらの新製品を一般に発表した。

これに先立つ五月十九・二十日の両日伊豆長岡で行われた東部地区三笠代理店会ならびに五月二十八・二十九日有馬温泉での西部地区三笠代理店会に於いて、全国からお集りになった代理店および報道関係の方達には80年代のバイブレーターに対する三笠の意欲的な姿勢を示す商品として登場した新しい高周波バイブレーターのすべてを披露した。

(関連記事二・三画)

「インヘッダー」とは三笠産業が商標登録を出願している三笠の高周波バイブレーターの呼び名である。このインヘッダーの81年型と言うべき新しい三笠の高周波バイブレーターには30・40・50・60・70型の各サイズが揃って、石積みからダム工事までのすべてのコンクリート打設に対する準備ができた。そのいずれもがより一層強力に、そして整備性が向上し扱い易くなっている。長時間連続してコンクリート打設をやる二次製品工場などの作業条件を考慮に入れ、作業者の手許へくる振動をほとんど消した防振ホースもオプションとして用意された。

MD30型インヘッダー

三笠ニュース第73号にその詳細を報じたとおり、今回発表のインヘッダーのなかでは振動筒直径が最も細いものである。

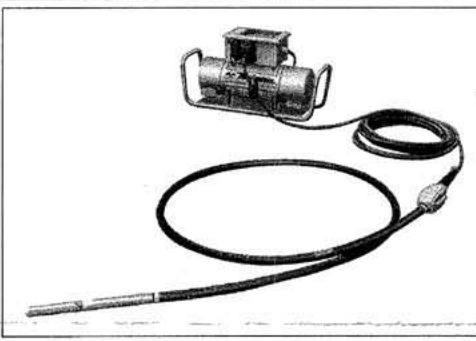
小さい外径でも強い力を発揮する高周波モーターの開発が30型インヘッダーの製作を可能にした。

緻密に組まれた鉄筋の隅々にまでコンクリートを充填させるにはまさに手頃なバイブレーターの出現と言えよう。

この30型インヘッダーは、バリエーションとしてライトインヘッダーなどをはじめとして、将来への発展の可能性を期待できる高周波バイブレーターである。

MD70型インヘッダー

これは、30型インヘッダーとはその対極にある高周波バイブレーターで、今回のシリーズのなかでは振動(30型インヘッダーとFC11型)コンバーター



型 式	MD30型	MD70型
振動筒の寸法 (カップリングを除く) ゴムホースの長さ	径 31% 長 389% 4 m	72% 440% ←
電 圧	48V (3相)	←
周 波 数	200/240Hz	←
入 力 (定格)	0.29KVA	2.3KVA
振 幅	1.7%	2.0%
振 動 数	11,000~	11,500~
(V.P.M)	12,500	13,000
コードの長さ	100m	25m
最大使用長さ (断面積3.5mm ²)	←	(断面積5.5mm ²)
概 重 量	11.3kg	21kg

開発したが、その他には床のコンクリート打設または擁壁の裏込めなどの仕事に適した高周波バイブレーターである。

取手が付いたスイッチボックスから柔軟性のある短いゴムホースが出ていて、その先に振動筒が取り付けられている。

普通のインヘッダーの標準品には長さ4mのゴムホースが付いていて、スイッチボックスから振動筒までの間隔がかなりある。仕事をすると、これは先端の振動筒を持って作業する人と、スイッチを操作する人の二人が一組となってコンクリート打ちをやっているが、ライトインヘッダー(右よりMH30型・40型)

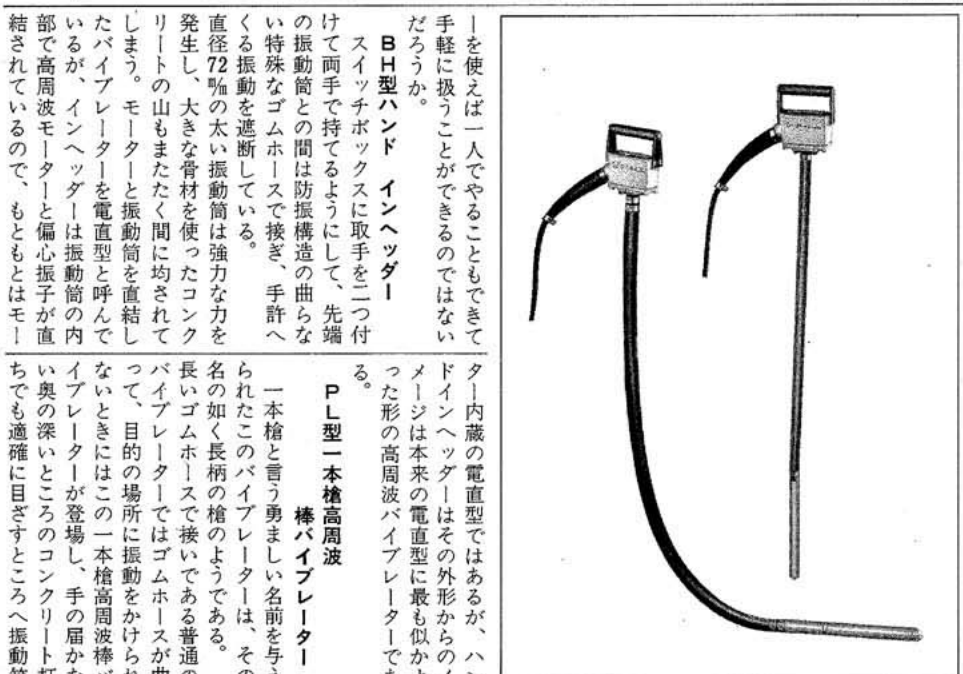
コンクリート法面の表面仕上機 これは便利だ アイデア商品

ロング電直28型の振動筒の先端附近に、週刊誌を「まわり大きくした程度の寸法の穴のたぐいさん」いた鉄板を取付けたバイブレーター、これだけのちよとした着想が現場で重宝がられている。

法面の擁壁のコンクリート打ちをして、表面に浮き出た気泡をとるのに平らな鉄板を型枠に沿って差し込んで引抜くという作業のこのとをスターチングと言うのだが、糊づけ仕上というような意味なのである。

これがけっこう力のある仕事なのだ。ロング電直28型にちよと手を加えた仕上機を使えば片手でもラクラク使えて仕上りもきれいとあってなかなかの評判。

普通は振動筒の先端に別のものを取付けると、振動が手許に伝わってしまいが、三笠の電直にはモーターと振動筒の中間に特殊な防振装置(特許出願中)があるのでこのように応用が効き、利用範囲が広がった。



型 式	MH30型	MH40型
振動筒の寸法 (カップリングを除く) ゴムホースの長さ	径 31% 長 389% 1 m	42% 400% 1.5 m
電 圧	48V (3相)	←
周 波 数	200/240Hz	←
入 力 (定格)	0.29KVA	0.5KVA
振 幅	1.7%	1.5%
振 動 数	11,000~	←
(V.P.M)	12,500	←
コードの長さ	100m	60m
最大使用長さ (断面積3.5mm ²)	←	(断面積3.5mm ²)
概 重 量	8.7kg	11.2kg

型 式	BH70型
振動筒の寸法 (カップリングを除く) 全 長	径 72% 長 440% 910%
電 圧	48V (3相)
周 波 数	200/240Hz
入 力 (定格)	2.3KVA
振 幅	2.0%
振 動 数	11,500~
(V.P.M)	13,000
コードの長さ	25m
最大使用長さ (断面積5.5mm ²)	←
概 重 量	13.3kg

型 式	PL30型	PL40型
振動筒の寸法 (パイプ部分を除く) パイプ部分の長さ	径 31% 長 389% 2,460%	42% 400% 3,200%
電 圧	48V (3相)	←
周 波 数	200/240Hz	←
入 力 (定格)	0.29KVA	0.5KVA
振 幅	1.7%	1.5%
振 動 数	11,000~	←
(V.P.M)	12,500	←
コードの長さ	100m	60m
最大使用長さ (断面積3.5mm ²)	←	(断面積3.5mm ²)
概 重 量	14.7kg	25kg

(PL40型とFC-1型コンバーター)



丸金商会(株) 展示即売会開催

わが社の東三河地区の代理店である丸金商会(株)が、豊橋市問屋町に於いて、さる四月二十六日(日)恒例の省力化機器展示即売会が、五十社を越すメーカー及び商社の協賛のもとに盛大に開催された。

この展示会も、第十五回目を迎え、地域ユーザーの皆様との結びつきもいよいよ強固なものになり、また東三河地区での三笠製品の展示会としても、ユーザーの皆様から愛されるようになった。

弊社からは80H・G型ランマーや52F型・70F型プレートコンパクター、7G型ローラーをはじめとする各種圧縮機械や、コンクリートカッター、コンクリートパイプリーター等を出品し、それぞれに好評を博した。特に二台目のコンクリートカッターが多数の注文となり、その機動性がひとしきり話題となった。また、その他の引合も多々あり、今後の成果も大いに期待がもたれる。

丸金商会の皆様の今後益々の御繁栄を心よりお祈り申し上げます。

地方課 小笠原記



(工場内を見学される一行)



関東地方もようやく梅雨入りした六月十五日、中華人民共和国国家基本建設委員会(中華人民共和国国家基本建設委員会)のメンバー九名が、当社の館林工場を訪れた。

一行は六月三日から八日まで東京晴海で開催された日本建設機械展示会の参観や関係官庁の訪問及び主要建設機械メーカーの参観の為に来日されたもので、主に北京や長沙の建設機械の研究機関で働く技術者達である。

量少し前に雨模様の館林駅に着いた一行は、小林工場長並びに館林商工会議所の正田会頭の歓迎を受け、工場へ向った。

工場に着いた一行は、工場長から工場の概要について説明を受けたあと、ジャンパーに着かえて工場内を見学された。パイプリーターの組立て部門では特に興味を持たれたようである。カット見本や各部品の前に、さかんに質問を投げかけていた。会

楊先生一行 (中華人民共和国国家基本建設委員会) 三笠館林工場を視察

六月三日から八日まで東京晴海で開催された日本建設機械展示会の参観や関係官庁の訪問及び主要建設機械メーカーの参観の為に来日されたもので、主に北京や長沙の建設機械の研究機関で働く技術者達である。

量少し前に雨模様の館林駅に着いた一行は、小林工場長並びに館林商工会議所の正田会頭の歓迎を受け、工場へ向った。

工場に着いた一行は、工場長から工場の概要について説明を受けたあと、ジャンパーに着かえて工場内を見学された。パイプリーターの組立て部門では特に興味を持たれたようである。カット見本や各部品の前に、さかんに質問を投げかけていた。会



(工場の中庭にて)

議室に於いて、当社の技術研究所員と交えて質疑応答の時間をもったが、皆さん技術者ということで、熱心にメモをとりながら細部にわたる質問をしていくのが印象的であった。

最後に楊先生のお礼の言葉を聞きながら、当社の技術力が中国近代化に少しでもお役に立てればと思いつつ先生方に別れを告げた。

原田記

(株)不二 松本営業所開設

三笠の長野県代理店として、販売に、リースにと著しい伸びを見せたいとされている(株)不二(本社：上田市、社長：小宮山昌男氏)では、営業の拠点作りの一環として、長野県松本市に、松本営業所(塩尻市本営業所)を開設した。

電話：松本八八〇三三〇〇 所長：鈴木惟夫氏

新営業所は空港通りに面し、松本西南工業団地の隣接地に位置しています。従って住所は塩尻市になります。松本市との境界線で交通の便は最高と云うことができます。

敷地面積約二〇〇〇㎡、約六六〇㎡の倉庫には四トンクレーンが装備され、また事務所は五〇〇㎡の近代化的な建物となり、まさに今伸び盛りの不二さんの新拠点にふさわしい陣容であります。

ここではまず建設機械のリースを主体に営業を展開されるようで、それから順次機械の販売リースを伸ばしていく方針との事。

不二さんは三笠製品の販売とリースに格段のご尽力をいただいておりますが、この機会に一段と拡大に力を入れることを確信しております。

地方課 長畑記



鈴木所長
と新社屋



鉄建工機(株)創立二十周年 記念展示会行なわる

我が社の新潟県有力代理店である鉄建工機株式会社(長岡市高見町十一の二、社長：小師定雄氏)に於いてこの創立二十周年を記念して、五月二十三日(土)、二十四日(日)、二十五日(月)の三日間にわたって、展示即売会を開催された。

会場は本社屋裏の三千坪の広い敷地内に、協賛メーカー約五十社の協力により、大型機より汎用品まで多数の機械等が展示された。

会期中は天候にも恵まれ、長岡市内はもとより遠くは佐渡からと、県内全域より多数のユーザーさんに御来場頂いた。

当社より、いまユーザーさんの注目を集めている高周波パイプリーター(インヘッダー)を始め、全商品を展示させて頂いた。

会期中、当社の即売した機械はMVC70F型コンパクターから軽便型パイプリーターに至るまで数多く、中でもインヘッダーは、ユーザーさんの要求と機械の性能が、マッチしたところからパイプリーターと云うことで、注目の的であり、成約の札が次々と貼られ、展示品が見えなくなる程であった。

鉄建工機さんと、ユーザーさんの二十年にわたるつきあいが肌で感じられて、成約の勢がい手締めの風景が随所で見られ鉄建工機さんの二十年と言う長い歴史を物語り、又今後も今迄以上の繁栄を約束するかのよう、不況風を吹き飛ばす大盛況の三日間であった。

新潟課 笠原記



小師社長と
展示会の模様



第十七回全三笠野球大会行なわる 館林工場優勝

四月八日(日)恒例の三笠産業の創立を記念する「第十七回全三笠野球大会」が本年の当番幹事春日部工場主催の下に、春日部市宮大沼グラウンドで開催された。

前日まで幾分曇り気味の天候だったが、当日は、この日を祝うかのように晴天に恵まれ、三笠進行曲が流れはじめて全員が集まった頃には、各チームとも今年こそはと熱気が漲っていた。

九時十五分、前年度優勝の本社チームを先頭に、各応援団が拍手で迎える中を盛大に入場式が行なわれた。

先ず主催チーム委員長、長谷川専務の開会の辞にはじまり、京谷社長の開会挨拶があった後、前年度優勝の本社チーム鈴木主将より京谷社長に優勝旗が返還され、続いて館林チーム小川応援団長より応援団賞の大トロフィーが返還された。

主催チーム委員長・長谷川専務の開会宣言、春日部チーム川又主将の力強い選手宣誓があり、開会式は終了した。



輸出課 2 年連続優勝 昭和55年度拡販コンクール

今年も六月二十五日(土)の誕生会開とに先立ち、恒例の優勝賞品販売成績最優秀課に授与されました。

今年、この栄誉に輝いたのは輸出課で、各課の悪戦苦闘の活躍にみまき、昨年に引き継ぎ二年連続して、ナンバーワンの座を保持するという記録を示しました。

七十年代は世界経済の大変動が起ころ、その流れから八十年代は、世界の相互依存傾向が予測されましたが、その幕開けにふさわしい、55年度の三笠の輸出成績であったと思われまふ。この日は高野次長がカナダ出張のため、代わりに藤村課長が優勝賞品を受け取りました。

この二年連続の勝利について、藤村課長は、「此の度の販売成績はひとえに取引先商社の御努力の賜であつた。また世界に受け入れられる優れた三笠製品を送り出した技術研究所並びに各工場、社内各関係セクションの御協力のお蔭と深く感謝して居ります。」と語ってくれました。

なお、輸出課は今期より海外営業部と変り輸出課・二課に分れることになり、これについて同じく藤村課長は、「今後は海外営業部として輸出課・二課に分れ、それぞれ決定された目標を目指すことになりました。一人一人の努力とチームワークを基としてこの一年を頑張ってください。この名譽の記録を維持すべく各販売目標に向って、第三十五期のスタートを切りました。」

輸出課には今後益々の好成績を、又、他課にも輸出課に勝る戦力強化による活躍を期待したいと思います。

阿部記



所チームの先攻で試合開始、技研チームは一回に一点、二回に一点得点すると、春日部チームも負けず二回に二点、三回に一点と得点して、二対二のシーソーゲームとなり、延長戦になるような状況であったが、春日部チーム最終回の五回裏に好打を振切り決勝進出を決めた。

続いて第二試合は館林チーム先攻で本社チームと対戦、三回までは一対一と面白い試合だったが、四回館林チームが二点を追加して、そのまま三対一で逃げ切り決勝進出を決めた。

優勝決定戦は午後一時三十分より、館林チームと春日部チームの間で争われることになり、館林チームの先攻で試合が開始された。

今年こそは、去年の雪辱を晴らすと意気込む両チーム一回裏裏に仲良く一点ずつ得点して面白い試合になったと思つたのも束の間、館林チーム三回に三点、四回に一点、五回に二点と合計七点得点したのに対し、春日部チームは三回に一点、最終回五回裏に必死に反撃に出たが及ばず一点止まり、結局七対三で館林チームに凱歌が上がった。

試合終了後、京谷社長より選手への健闘を賞えて優勝館林チームに、優勝旗とカップ。又、数多くの個人賞が各チームの優秀選手に贈られた。

応援団賞は、大学の応援団より講師を招いて特別を受けた春日部チーム森田応援団長に社長より優勝大トロフィーが贈られた。

主催チーム副委員長小森課長の閉会の辞に続いて社歌合唱、万才三唱により、ここに本大会は無事終了した。

春日部工場 佐藤久夫記
(優勝した館林チーム)

